



9月の予定

〈公〉中央公民館 〈農〉農業者トレーニングセンター
〈町〉町民会館 〈さ〉さんさん館 〈健〉健診ホール
〈温〉温水プール 〈ふ〉ふれあい公園PG場

- 3日(日) [休日当番病院] 美幌 玉川医院 ☎75-2780
- 10日(日) [休日当番病院] 美幌町立国保病院 ☎73-4111
- 13日(水) 離乳食教室(初期) 午前10時~〈役場 調理実習室〉
- 15日(金) 運転免許証自主返納 出張窓口開設
午前10時~正午〈津別交番〉
- 16日(土) リサイクル回収 午前9時~11時〈スポーツ交流館〉
- 17日(日) [休日当番病院] 美幌 田中医院 ☎73-2913
- 18日(月) [休日当番病院] 美幌療育病院 ☎73-3145
- 20日(水) 移動献血車来町
- 21日(木) 移動献血車来町
- 23日(土) [休日当番病院] 津別病院 ☎76-2121
- 24日(日) [休日当番病院] 美幌 こばやし内科クリニック ☎73-3356
- 30日(土) 第4回つべつウッドロスマルシェ 午前9時~正午
〈津別町木質バイオマスセンター〉

人の動き

令和5年7月末現在
() は前月比

人口 4,142人(+2) 世帯 2,166戸(+5)
 男性 2,025人(+2) 女性 2,117人(±0)
 高齢化率 45.49% 1,884人

メール配信システム「ささえねっと@つべつ」への登録をお願いします！

町の防災情報など大切な情報をお届けしています。

メールの登録方法

①QRコードから登録



②t-tsubetsu@sg-p.jp(メールアドレス)を入力し、空メールを送り登録

LINEの登録方法

QRコードから登録



※詳細は、町ホームページをご覧ください。



【201】 青少年交流再開

新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな交流がストップしていた。今年の5月8日から感染症法上、危険性が最も低いとされる5類に分類されたことから、徐々に交流が再開され始めた。船橋市と南アルプス市との青少年交流もその一つである。

7月31日から8月2日にかけて南アルプス市の小学生と指導者25名が4年ぶりに来町した。続いて8月6日から9日には船橋市から38名がやって来た。南アルプス市の一行とは、東京での要請活動に参加していたため残念ながら会えずにしまったが、船橋市の一行とはジンギスカン料理などでもてなす歓迎会に出席できた。

たてよこプラス



町長 佐藤 多一

船橋市との青少年交流事業の始まりは平成元年で、小学生86人、中学生123人、指導者47人の計256人が、8月17日から23日の6泊7日の行程で来町した。この年は中国で天安門事件が起こったため、船橋市

の旧楡形町から繊維企業が津別町に工場を開設したことをきっかけに、平成6年10月に友好都市を結び、翌平成7年8月に中学校野球部員など、一行51名が来町したのが始まりである。その後、南アルプス市とは姉妹都市となり、職員の相互派遣も行って来た。職員交流は、今後船橋市ともできないものかと市長に伝えたい。

新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな交流がストップしていた。今年の5月8日から感染症法上、危険性が最も低いとされる5類に分類されたことから、徐々に交流が再開され始めた。船橋市と南アルプス市との青少年交流もその一つである。

7月31日から8月2日にかけて南アルプス市の小学生と指導者25名が4年ぶりに来町した。続いて8月6日から9日には船橋市から38名がやって来た。南アルプス市の一行とは、東京での要請活動に参加していたため残念ながら会えずにしまったが、船橋市の一行とはジンギスカン料理などでもてなす歓迎会に出席できた。

はそれまで行っていた中国との交流を見合わせた。その代替地として、津別町から離農された船橋市に住まわれた方と、船橋ポータルオンラインクラブのご尽力により津別町が選ばれた。

256人の受入れはホームステイが中心で、当時下水道工事が進められていたものの、まだ未設置の農家の方々の受け入れ協力は、当時の小南町長は深く感謝したに違いない。あれから35年、交流は途中3年間コロナで途絶えたが、明日を担う子どもたちが空間を超えて交流を深めることは、大変意義深いことだと思つ。

南アルプス市との交流は、合併前の旧楡形町から繊維企業が津別町に工場を開設したことをきっかけに、平成6年10月に友好都市を結び、翌平成7年8月に中学校野球部員など、一行51名が来町したのが始まりである。その後、南アルプス市とは姉妹都市となり、職員の相互派遣も行って来た。職員交流は、今後船橋市ともできないものかと市長に伝えたい。